

学習指導案（個別実践研究：高等学校国語）

1 単元名 評論文を分析，評価する

2 教材名 主教材：前田 英樹「人間の自由」『精選現代文』東京書籍
補助教材：丸山圭三郎「言語と記号」『精選現代文』東京書籍

3 単元観

(1) 生徒観

本学級は全体的に明るく、活気のあるクラスである。学習活動においても積極的に発言し、また疑問に思うことは互いに相談して解答を導くということが自然にできるクラスである。学力や学習に対するモチベーションについては個人間にやや開きはあるものの、全体的に授業に前向きに取り組むような雰囲気がある。ただ、教材の内容を理解することはできても、積極的に評論文を読み進め、より深く本文の内容を理解しようとするところまではまだ至っていないのが現状である。また、評論文を読み、内容について自分なりに価値付けするという経験も不足している。

(2) 教材観

本単元では、本研究の中で「確かな読みの力」の実践的能力と位置づけている、「分析力」「批判・評価力」の育成を目標とする。評価する事項は、「筆者の論理を分析，評価する」である。そのために、読解の段階で、文章の論理展開にかかわる接続語や具体例の働き、キーワードの意味内容や論の深まりに注目させたい。

「人間の自由」は『倫理という力』（2001年刊：講談社現代新書）の第2章の冒頭部分である。人間は自ら道徳的な行動をなす「倫理的な原液」というものを本来もっているというのが筆者の主張であり、そのような考え方を、動物との比較や「傍若無人」という言葉の分析、自分の子ども時代の経験などを通して、読者に伝えようとしている文章である。「自由意志」や「欲求」、「命令」といったキーワードを文脈に即して理解しながら読み進めていく必要があり、生徒にとっては読解が難しい教材であると言える。また、筆者の考え方を支える「他者意識」や「知性（理性）」との対比が表現として表に出てこないため、読解を深めていくためには『倫理という力』の他の部分に関する内容を随時生徒に伝えていく必要があると思われる。しかし、一方で、本来論理的に説明することが難しいと思われる「道徳・倫理」を題材として扱っているために、筆者の主張に最後まで納得しない生徒も出てくると考えられ、そのような疑問点を出発点として「評論文の分析，評価」を試みることも可能になる教材であるとも言える。

補助教材の丸山圭三郎「言語と記号」は、本教材の前に読み終えている教材である。高校の評論文における重要テーマの一つである言語論の基礎的な考え方を述べた文章である。抽象度の高い表現もあり、生徒には読みにくい教材であったと思われるが、「名付け」という命名行為に関する我々の常識に対して一石を投じ、さらには言語に内在する力についても言及しているため、生徒の既成概念を揺さぶるには適当な教材であったと思われる。論の展開は「人間の自由」よりも分かりやすく、具体例も取り上げられており、論理展開について比較分析する教材として利用できると思われる。

(3) 授業観

本単元の目標である「分析力」「批判・評価力」の育成のために、「構成」「具体例」「キーワード」という3つの観点で生徒の思考の場を設けたいと考えている。「構成」においては、補助教材との比較を利用して、接続語や段落毎の内容に注目させることで筆者の論理展開を理解させたい。また、「具体例」においては、文章の趣旨と具体例との関係や具体例の確かさなどについて考えさせたい。「キーワード」においては、「キーワード」に関する筆者の主張を深めたり、自分の考え方と比較し、評価するような作業を取り入れていきたい。

また、同時に、日常生活においてあまり意識されていない「道徳・倫理」についての理解を深めていく中で、現代社会における評論文の重要性を感じ取らせ、評論文に対する興味・関心を高めていきたい。

4 単元の指導目標

- (1) 現代社会についての理解を深める手助けとなる評論文に対する意識を高めさせる。
- (2) 文章の構成や具体例の役割，キーワードの内容を的確に捉えさせながら，筆者の主張を正確に読み取らせる。
- (3) 構成や具体例，キーワードに注目しながら筆者の論理を分析させ，その分析を基に筆者の論理を評価させる。

5 単元の評価規準

- ア 評論文読解の意義を理解しながら，文章を積極的に読み進めている。 【関心・意欲・態度】
- イ 文章の構成や具体例の役割，キーワードの内容を押さえながら，文章の趣旨を読み取っている。 【読むこと】
- ウ 構成や具体例，キーワードに注目しながら筆者の論理を分析し，その分析を基に筆者の論理を評価しようとしている。 【読むこと】

6 単元の授業過程（全6時間・本時6 / 6）

過程	学習内容及び学習活動	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 「人間の自由」と「言語と記号」を読み比べながら，教材についての自分の考えをまとめる。	1	(1) 「言語と記号」と「人間の自由」の論の展開の違いに注目させる。また，「人間の自由」を読んだ自分の考えや疑問点を確認させる。	ア 評論文を意欲的に読んでいる。 【ワークシート】
展開	2 第1段落から第4段落の内容を読み進め，人間と動物との比較による筆者の主張の展開をつかむ。	1	(2) 段落構成や具体例に注目しながら読み進めさせるようにする。また，省略されている部分の補足説明をする。	イ 筆者の論理の流れや具体例との関係性を読み取っている。 【ワークシート・観察】
	3 第5段落から第9段落の内容を読み進め，論の展開や具体例に注目しながら筆者の主張を読み取る。	1	(3) 「傍若無人」「子ども時代」の具体例に注目しながら読み進めさせる。また，具体例についての補足説明をする。	イ 論理の展開と具体例の内容を読み取っている。 【ワークシート・観察】
	4 第10段落から第13段落の内容を読み進め，キーワードの関係性と筆者の主張を読み取る。	1	(4) 「命令」「自由(自由意志)」「社会」等のキーワードの関係性に注目しながら読み進めさせる。	イ 論理の展開とキーワードの関係性を読み取っている。 【ワークシート・観察】
	5 第14段落から第18段落の内容を読み進め，キーワードの関係性を整理し，筆者の最終的な主張について考える。	1	(5) 「命令」「自由(自由意志)」「欲求」等のキーワードの関係性に注目しながら，筆者の主張を読み取らせる。また，具体例についての補足説明をする。	イ 論理の展開とキーワードの関係性を読み取っている。 【ワークシート・観察】
終末	6 ワークシートを基に，筆者の論理を分析し，評価する。また，グループでの話し合いを通して，「道徳・倫理」に関する自分の考えを深める。	1	(6) 分析・評価の際には，「構成」「具体例」「キーワード」の3つの観点を意識させる。また，評価文を他の生徒と共有させることで，「道徳」についての自分の考え方を振り返らせる。	ウ 筆者の論理や考え方を分析し，評価している。 【ワークシート・観察】